

2023 年度 事業経過報告

総括報告

2023 年度は、昨年度から進めてきた日本歯科医師会をはじめとする歯科関係団体、歯科技工関連団体との関係性が良好となり、数年ぶりの各団体との協議会を継続的に開催することができた。今後も全ての歯科技工士が一体となって様々な問題解決に向け協議を進め、歯科医師会への事業協力を含め進めていく。また、厚生労働省医政局歯科保健課長名で都道府県知事等宛に開設届出された歯科技工所のホームページ等への掲載および必要事項に歯科技工所施設番号を付与することが示され、一定の方向性に道筋ができた。これには日本歯科技工士連盟の果たした役割は大きく、深く感謝申し上げたい。

2020 年 1 月から約 4 年間続いた新型コロナウイルス感染症は、2023 年 5 月に 5 類に引き下げられたものの、安心が保障された状況とはいかず、制約の中で事業展開を余儀なくされる状態は続いた。幸いにも役員及び事務局職員に感染者が出て会務が滞るということもなく本年度末を迎えられたこと、そして地域組織における協力を感謝したい。

また、この間に築いたオンラインシステムを活用した会務執行も順調に進めることができ、今後もこれまでの経験と実績を継承しさらに発展させていき、限られた原資で合理的な組織運営を目指していく。

教育研修事業部門では、「歯科技工士生涯研修」や厚生労働省委託、日本歯科医師会との共催事業「感染症予防歯科技工士講習会」については、今年度も本部役員と地域組織の役員、関係団体との連携協力のもと、多くの会員等が受講され歯科技工士として必要な知識と技術及び徳性を養うことができた。

「感染症予防歯科技工士講習会」においては、長年、講師を務めて頂いた奥田克爾名誉教授が、本年度をもち講師を退任された。二十数年にわたり歯科技工士のためにご尽力いただいたことに深く感謝を申し上げます。

また、日技指定研修「顎口腔機能学」も、開始から 8 年、全国 47 都道府県全てでの開催が本年度末に完了した。ご協力いただいた講師の日本歯科大学名誉教授 小出馨先生をはじめとする関係者に改めて感謝を申し上げます。

国際振興事業部門では、開発途上国への歯科技工技術支援として、国際医療技術財団 (JIMTFF) との共催により、ベトナム社会主義共和国へ今年度も講師を派遣し歯科技工技術向上へ向けた研修会を開催した。同時にベトナム側の要望である歯科技工士養成学校 (大学) 設立に向け、事前調査のため役員を派遣した。

一人で歯科技工所を開業している、いわゆる「一人親方」が労災保険に特別加入可能になったことを受けて、「労災保険特別加入団体」を設立し 2023 年 4 月 1 日から運用を開始した。これにより設立準備委員会を解散し、傘下の団体として活動を進めた。

歯科技工士の環境整備のための国の直轄事業は、2017 年度からの「歯科補てつ物製作過程等の

情報提供推進事業」を引き続き受託し、国費事業として信頼と評価を得るよう取り組んだ。「歯科技工所業務形態改善等調査検証事業」に関しては過去5年間の検証事業のみを請け負い事業実施にあたった。所管行政と引き続き、様々な課題について情報共有しながら進め、国民に良質な歯科補てつ物を継続的に供給するという観点から、歯科技工士が置かれている現状についても協議しながら事業展開を図った。

その他、2024年6月1日実施の歯科診療報酬改定へ向けた対応や、主要な渉外活動及び関連する公的検討会等をとおして、歯科専門職としての歯科技工士のあり方等の課題について意見を述べ、理解を求める活動に徹した。

以上、2023年度の総括報告とする。